



どうするの？ 議員定数

6月5日、市内各団体の代表者の皆さんと意見交換を行いました。こうした市民の皆さんの声を踏まえながら、議員定数の在り方について検討を進めてきました。

次期市議選は現状の定数14人を

維持することに決定

議

員定数は条例で定められており、その内容を決めるのは深川市議会です。市議会ではこれまでも、その時々状況に応じて、議員定数の在り方について話し合いを重ねてきました。

こうした中、令和5年執行の市議会議員選挙が無投票となったことや、同年に「議員定数の削減を求める陳情」が提出されたことを受け、人口減少や社会環境の変化を踏まえながら、令和9年6月の次期改選に向けて、現在の定数が本市にとって適切であるかを改めて検討してきました。

その結果、議会の役割や深川市の地域性、他市の状況などを総合的に勘案し、現在の議員定数14人を維持していくことを、議会運営委員会において決定しました。

定数維持の理由

4つの視点

①議会の役割

市の取組を適切にチェックし、市民の皆さんの様々な意見を市政に反映させるためには一定数の議員が必要

②委員会の機能

議案や政策課題について、継続的に調査や審査を行う委員会の働きを十分に保つため、現在の二委員会制を維持することが大切

③地域性への配慮

それぞれの地域の声をしっかりと受け止め、市政に届ける役割が求められている

④類似市との比較

人口規模が近い他市と比べても、深川市の議員定数は特に多い水準ではない

人口減少だけを理由に定数を削減するのは適切ではない。議員がより多くの市民の声を行政に届けるためにも現在の議員定数がよい。

過疎化や高齢化が進む地域では議員と住民が接する機会が重要。人口だけでなく面積も考慮すべきである。

人口減少や産業構造が変化する中、議会も合理化を進める必要がある。工夫すれば議員数を減らしても市民の意見は集約できるのではないか。

議員の皆さんには深川の町なかをどうするのかという問題を真っすぐ見て、中身の濃い議論をしてもらいたい。

意見交換会では

こんな声をいただきました

類似市と比較しても議員数は多くない。深川市の地理的環境や多様性を重視する観点からも現状維持が望ましい。

意見交換会



<参加団体>

深川市町内会連合会連絡協議会、深川市シルバークラブ連合会、深川市男女平等参画推進協議会、深川商工会議所、きたそらち農業協同組合、きたそらち農業協同組合青年部深川支部、深川市内J A女性部連絡協議会、連合北海道深川地区連合会